

UNIVERSITY
OF THE
RYUKYUS 2017

琉球大学概要

平成29年度





琉球大学の基本理念

琉球大学は建学の精神である「自由平等・寛容平和」を継承・発展させて、
「真理の探求」、「地域・国際社会への貢献」、
「平和・共生の追求」を基本理念とする。



Contents

- 学長あいさつ 4
- 琉球大学の基本的な目標 5
- 沿革概要・略図 6
- 運営機構図 7
- 概要（数字でみる琉球大学） 8
- 特集：研究フィールド 10
 - 与那フィールド／瀬底研究施設／西表研究施設
- 学部 12
 - 法文学部／観光産業科学部／教育学部／理学部
 - 医学部／工学部／農学部
- 大学院・特別専攻科 14
 - 人文社会科学研究科／人文社会科学研究科 外国人留学生特別プログラム
 - 観光科学研究科／教育学研究科／医学研究科
 - 保健学研究科／保健学研究科 外国人留学生特別プログラム
 - 理工学研究科／理工学研究科 外国人留学生特別プログラム
 - 農学研究科／法務研究科／鹿児島大学大学院連合農学研究科
 - 特別支援教育特別専攻科

- 学士課程教育 17
 - URGCC
- COC 事業 18
- 国際交流 20
- 附属施設 22
 - 医学部附属病院／附属図書館／博物館（風樹館）
- 教育研究施設 24
 - 教育学部附属学校／教育研究施設
- センター・研究所 25
 - 熱帯生物圏研究センター／研究基盤センター
 - 総合情報処理センター／島嶼防災研究センター／国際沖縄研究所
- 機構等 26
 - グローバル教育支援機構／研究推進機構／地域連携推進機構
 - 亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構／ダイバーシティ推進本部
 - 大学評価 IR マネジメントセンター／ハラスメント相談支援センター
- キャンパスライフ 28
- キャンパスマップ 30

■現在の琉球大学全景



■開学当時のキャンパス風景（1950年代）

琉球大学の開学

第2次世界大戦によって灰燼に帰した沖縄では、沖縄の復興を教育の振興に託す人々、向学の志に燃える高等学校の生徒、さらにはハワイの沖縄県人会、東京の沖縄人連盟等から大学設立の請願運動が展開され、全琉的な世論となり、遂に当時の軍政府が1948年12月に、首里城跡に大学を設立することを決定した。

大戦後の混乱した沖縄での開学準備は極めて困難であったが、1950年4月に学生募集要項を発表、同年5月に入学試験を実施して、5月22日に首里キャンパス本館で入学式を挙行了した。



■琉球大学本館（1950年代）



■アメリカ式の授業登録風景（1950年代）



■廊下も教室として利用（1950年代）

豊かな未来社会の実現に向けて



第16代学長

おお しろ はじめ
大城 肇

略 歴 1977年 広島大学大学院経済学研究科修了
2008年 琉球大学副学長
2009年 琉球大学理事・副学長
2013年 琉球大学長

専門分野 島嶼経済学、数理経済学
学 位 経済学修士
学 会 日本島嶼学会
そ の 他 沖縄県振興審議会委員
沖縄振興開発金融公庫運営協議会委員などを兼任

～未来共創へ行動するシンクタンク～

琉球大学は、琉球諸島や海外県系の人々の熱望により、1950年5月22日、首里城跡地に開学しました。以来、「自由平等、寛容平和」を建学の精神とし、有為な人材の輩出や豊かな地域特性を活かした特色ある研究の推進はもとより、地域社会への貢献を大学ミッションの一つに掲げて、多様な社会・経済・文化の発展に寄与すべく数多くの取組を展開しています。

特に草創期から日本復帰までは、島嶼地域における高等教育の機会均等の確保に注力し、戦争で廃墟と化した地域社会の復興を担う人材の輩出はもとより、社会人の再教育として那覇エクステンションセンターや大島分校(奄美)を設け、現職教員のための英語教授法や職業教育ワークショップなどを開講していました。近年、大学の地域貢献が当たり前と言われるようになりましたが、当時としては非常に画期的な取組でした。

このような地域社会への貢献意識は脈々と受け継がれ、サテライトキャンパスや公開講座による社会人の学び直しや生涯学習への積極的な支援を通じて、本学の教育研究の成果が地域の人々に還元されるようになっていきます。また、将来を担う若年層の小中校から大学までの連続した学びを創出すべく、自然科学分野における非凡な才能を持つジュニアドクターの発掘・育成にも力を入れています。

沖縄県は、アジアの国々と交流してきた歴史をもつ豊かな多文化共生社会です。このような地域特性を踏まえつつ、本学は、人材育成と地域振興、産業振興と地域活性化、地域完結型医療の構築、子どもの貧困対策などの地域課題を解決するため、多くの自治体や機関と包括連携協定を締結して産学官共創体制を強化し、具体的な活動に取り組んでいます。このような様々な活動・取組を象徴する実体が「行動するシンクタンク」としての大学です。

琉球大学は、亜熱帯の島嶼県に位置する総合大学として、地域の抱える課題の解決がグローバルな課題解決の糸口となって、人類の幸福と平和に貢献できることを自覚し、行政・産業界・国内外の教育研究機関と連携して、豊かな未来社会実現のためにアクティブに挑戦し続けます。

大城 肇

役員等

理事・副学長・事務局長 総務・財務・施設担当	ふくじ 福 治	ゆうえい 友 英	副学長 自己点検・評価・IR担当	かわもと 川 本	やすひろ 康 博
理事・副学長 研究・企画戦略担当	にしだ 西 田	むつみ 睦	副学長 産学官連携担当	おく 屋	ひろすけ 宏 典
理事・副学長 教育・学生支援・法務担当	となき 渡 名 喜	ようあん 庸 安	監事	よしめ 嘉 目	かつひこ 克 彦
理事・副学長 地域連携・地域医療・キャンパス移転担当	すがはら 須 加 原	かずひろ 一 博	監事	こいけ 小 池	まゆみ 真 由 美
理事・副学長 国際戦略・広報戦略・ダイバーシティ推進担当	はなしろ 花 城	りえこ 梨 枝 子			

琉球大学の基本的な目標

1. 琉球大学の目指すところ—Vision—

本学は、“Land Grant University”の理念のもと、「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」を目指すと共に、本学の強みを発揮し、新しい学術領域である熱帯・島嶼・海洋・医学研究の国際的な拠点として「アジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点大学」を目指します。

2. 長期ビジョンの実現に向けて—Mission—

本学は、草創期からの理念を生かし、沖縄や日本、世界に貢献できる教育研究拠点を形成します。

3. 第3期中期目標・中期計画の方針—Action—

本学は、地域活性化の中核的拠点となるべく社会変革にシなやかに対応できるイノベティブな大学としての歩みを加速します。

4. 地域社会・国際社会への貢献—Outcome—

【教育を通じた貢献】

国際的に通用する教育の質および学位の質を確保しつつ、幅広い教養を基礎とし、高度な専門知識と課題探求能力を糧に世界で活躍・貢献できる人材を育成します。

【研究を通じた貢献】

地域特性を踏まえた研究に基づく独創的な研究成果と新たな価値の創出、地域社会の発展に質する異分野融合や学際的な研究の推進を通じて、アジア・太平洋地域における中核的な学術研究拠点の形成を目指します。

【社会・国際連携を通じた貢献】

「ウチナーンチュ・ネットワーク」をはじめとするグローバル・ネットワークを活用し、産業界、行政機関ならびに国内外の大学・研究機関との連携を強化して、地域の活性化および国際化に貢献します。

【大学ガバナンス】

社会のニーズに対応するため、組織編成や財政基盤の強化、教育研究力の向上に質する組織を戦略的・機動的に展開し、自己点検・評価と外部評価を反映した大学運営を行います。

- 1950 S25.5.22 ● **昭和25年5月22日開学**
 本学が、英語学部、教育学部、社会科学部、理学部、農学部及び応用学芸学部の6学部、1・2年次あわせて562人の学生、44人の職員で開学し、同日、第1回入学式を挙行。


英語学部	教育学部	社会科学部	理学部
農学部	応用学芸学部		
- 1952 S27.4.1 ● 新学則により、英語学部は語学部、応用学芸学部は商学部と家政学部に分離改組し、8学部14学科、2課程に編成。

語学部	教育学部	社会科学部	商学部
理学部	農学部	林学部	家政学部
- 1960 S35.12.2 ● **開学10周年記念式典を挙行。**
- 1964 S39.10.1 ● 教養部を設置(昭和41年4月1日発定)
- 1966 S41.7.1 ● 短期大学(英語科、法政学科、経済科、商科、機械科、電気科、夜間・3年課程)を併設(昭和42年4月1日短期大学部学生受入れ)。

文学学部	教育学部	農家政工学部	教養部
------	------	--------	-----

短期大学部
- 1967 S42.3.22 ● 故金城キク女史寄贈の風樹館(自然科学標本館)の落成式が行われた。

■附属図書館(1950年代)
- 1967 S42.4.1 ● 琉球大学設置法の一部改正により4学部、法文学部、教育学部、理工学部、農学部28学科に改編。

法文学部	教育学部	理工学部	農学部
------	------	------	-----
- 1968 S43.5.17 ● 琉球大学設置法の一部改正により保健学部を設置し、5学部に改編。

法文学部	教育学部	理工学部	保健学部
農学部			
- 1970 S45.12.4 ● **開学20周年記念式典を挙行。**
- 1972 S47.4.1 ● 学則の改正により、5学部、18学科、3課程に改編、短期大学部を4学科に統合。
- 1972 S47.5.15 ● 沖縄の日本復帰により、琉球大学及び同短期大学部は、国に移管され国立大学となり、琉球大学附属病院は、琉球大学保健学部附属病院となった。
- 1977 S52.5.2 ● 大学院農学研究科(修士課程)を設置。

農学研究科

- 1979 S54.4.1 ● 国立学校設置法の一部改正により理工学部を理学部及び工学部に分離改組。

理学部	工学部
-----	-----
- 1979 S54.10.1 ● 国立学校設置法の一部改正により医学部を設置。(昭和56年4月1日医学科学生受入れ)。

医学部

- 1980 S55.4.1 ● 大学院理学研究科(修士課程)を設置。

理学研究科	農学研究科
-------	-------
- 1980 S55.5.22 ● **開学30周年記念式典を挙行。**

- 1981 S56.4.1 ● 保健学部が医学部保健学科に改組、保健学部附属病院は医学部附属病院となった。
 教育学部附属小学校を設置。(昭和57年4月1日小学生受け入れ)。熱帯海洋科学センターを設置。
- 1981 S56.9.1 ● 琉球大学のキャンパス移転に伴い、千原団地に中央館新館が、落成、開館。
- 1984 S59.4.11 ● 教育学部附属中学校を設置。(昭和60年4月1日中学生受け入れ)。
- 1985 S60.4.1 ● 大学院工学研究科(修士課程)を設置。

理学研究科	工学研究科	農学研究科
-------	-------	-------
- 1985 S60.11.2 ● 移転完了祝賀会が行われた。
- 1986 S61.4.1 ● 大学院保健学研究科(修士課程)を設置。

理学研究科	工学研究科	保健学研究科	農学研究科
-------	-------	--------	-------
- 1987 S62.4.1 ● 大学院法学研究科(修士課程)を設置。
 大学院医学研究科(博士課程)を設置。

法学研究科	理学研究科	工学研究科	医学研究科
保健学研究科	農学研究科		
- 1990 H2.4.1 ● 大学院教育学研究科(修士課程)を設置。

法学研究科	教育学研究科	理学研究科	工学研究科
医学研究科	保健学研究科	農学研究科	
- 1990 H2.5.22 ● **開学40周年記念式典を挙行。**
- 1992 H4.4.1 ● 鹿児島大学大学院連合農学研究科へ構成大学として参加。
- 1995 H7.4.1 ● 大学院法学研究科(修士課程)を廃止し、人文社会科学研究科(修士課程)を設置。

人文社会科学研究科	教育学研究科	理学研究科	工学研究科
医学研究科	保健学研究科	農学研究科	
- 1996 H8.9.30 ● 短期大学部を廃止。
- 1997 H9.4.1 ● 大学院工学研究科の修士課程を博士前期課程、博士後期課程に改組。
- 1998 H10.4.1 ● 大学院工学研究科を理工学研究科に名称変更。修士課程を博士前期課程、博士後期課程に改組。

人文社会科学研究科	教育学研究科	理学研究科	理工学研究科
保健学研究科	医学研究科	農学研究科	
- 2000 H12.5.22 ● **開学50周年記念式典を挙行。**
- 2004 H16.4.1 ● **国立大学から国立大学法人へとなった。**
 大学院医学研究科修士課程医科学専攻を設置。
 大学院法務研究科法務専攻を設置。

人文社会科学研究科	教育学研究科	理工学研究科	医学研究科
保健学研究科	農学研究科	法務研究科	
- 2006 H18.4.1 ● 大学院人文社会科学研究科(博士課程)を大学院人文社会科学研究科(博士前期・博士後期)として設置。
- 2007 H19.4.1 ● 大学院保健学研究科(修士課程)を大学院保健学研究科(博士前期・博士後期)とした。
- 2008 H20.4.1 ● 観光産業科学部を設置。

法文学部	観光産業科学部	教育学部	理学部
医学部	工学部	農学部	

 特殊教育特別専攻科を特別支援教育特別専攻科へ名称変更。
- 2009 H21.4.1 ● 大学院観光科学研究科(修士課程)(観光科学専攻)設置。

人文社会科学研究科	観光科学研究科	教育学研究科	理工学研究科
医学研究科	保健学研究科	農学研究科	法務研究科
- 島嶼防災研究センターの設置。
- 2010 H22.5.22 ● **開学60周年記念式典を挙行。**
- 2016 H28.4.1 ● 大学院教育学研究科高度教職実践専攻を設置。
- 2017 H29.4.1 ● 工学部1学科7コースに改組

運営機構図



※法文学部及び観光産業科学部では、平成30年4月から改組を計画しています。

数字でみる琉球大学

学部 (平成29年度)

法文学部	3学科
観光産業科学部	2学科
教育学部	1課程
理学部	3学科
医学部	2学科
工学部	1学科
農学部	4学科

7 学部

15 学科 **1** 課程

大学院 (平成29年度)

人文社会科学研究科
観光科学研究科
教育学研究科
医学研究科
保健学研究科
理工学研究科
農学研究科
法務研究科
鹿児島大学大学院連合農学研究科
外国人留学生特別プログラム

9 研究科

5 プログラム

図書館 (平成28年度)

和漢書	705,634	1,007,806 冊
洋書	302,172	
和雑誌(種)	13,764	21,126 冊
洋雑誌(種)	7,362	

入館者数 **471,495**人



学生数 (平成29年5月1日現在)

学部学生	7,284
大学院生(修士・博士前期課程)	563
大学院生(博士・博士後期課程)	304
専門職学位課程	71

8,222人

学位取得者数 (平成28年度)

学部学生	1,506
大学院生(修士)	238
大学院生(博士)	41
<small>※うち論文審査による学位授与者5人(博士)</small>	
大学院生(専門職学位)	6

1,791人

就職率 (平成28年度)

※就職率は就職希望者に対する就職者の割合

学部 **96.6**%

修士・博士前期課程 **97.9**%

博士・博士後期課程 **100**%



役員・教職員数 (平成29年5月1日現在)

学長	1	教諭	52
理事・監事	7	事務・技術系	1,320
教授	303	合計	2,240 人
准教授	264		
講師	69		
助教	224		

研究 (平成28年度)

■科学研究費助成事業採択状況

採択件数 **294**件

受入額 **551,330,000**円

■特許関係実績

出願件数 **9**件 保有件数(累計) **70**件

国際交流 (平成28年度)

■交流協定大学・機関数

大学間交流 51校

部局間交流 33校

合計 **84**校

■交流協定大学との学生交流

交換学生：受入 **82**人 交換学生：派遣 **48**人

地域・社会貢献 (平成28年度)

大学又は学部等の組織単位もしくは大学・学部等の承認の下に、グループ等を結成して能動的に実施した地域・社会貢献活動の実績です。

地域振興・活性化、

地域医療、地域特有の課題解決、

出前講座、公開講座、

高校訪問など

延べ **621**件

敷地面積 (平成28年度)

千原地区 **1,123,616**㎡ 与那地区 **8,867**㎡

上原地区 **139,169**㎡ (借地 3,183,810㎡)

奥地区 **107,382**㎡ 石嶺地区 **20,787**㎡

瀬底地区 **25,759**㎡ 志真志地区 **20,308**㎡

西表地区 **3,953**㎡ 前田地区 **6,674**㎡

(借地 1,989,792㎡)

合計 **1,456,515**㎡
(借地5,173,602㎡)

医学部附属病院 (平成28年度)

診療科目

・内科(結核含む) ・耳鼻咽喉科
・外科 ・眼科
・脳神経外科 ・精神科神経科
・整形外科 ・放射線科
・形成外科 ・麻酔科
・産科婦人科 ・歯科口腔外科
・小児科 ・病理診断科
・皮膚科 ・救急科
・泌尿器外科 ・リハビリテーション科

病床数・患者数

病床数 **600**床

・外来患者延数 **285,020**人

・1日平均外来患者数 **1,172.9**人

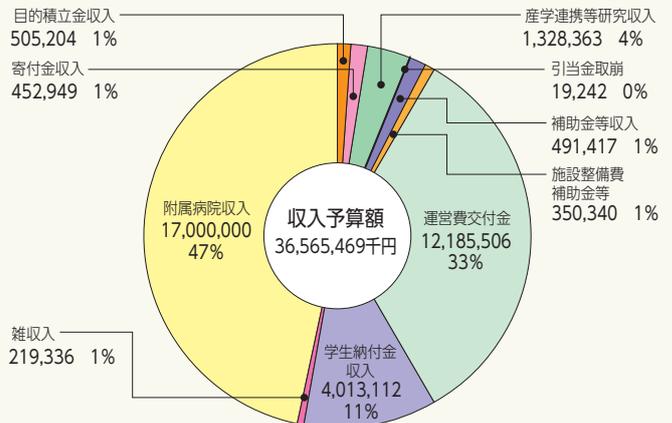
・入院患者延数 **192,020**人

・1日平均入院患者数 **526.1**人

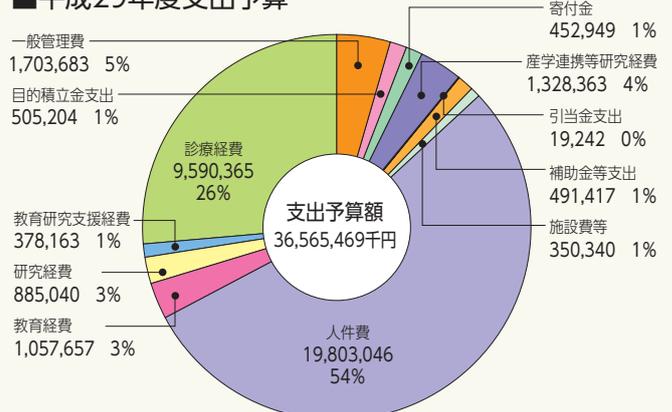


予算規模

■平成29年度収入予算



■平成29年度支出予算



亜熱帯の特性を活かした3大

与那フィールド(農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター)



■沖縄島北部やんばる地域の国頭村に位置する与那フィールドの施設

農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センターは、実践的な教育・研究の場として、大学構内に「千原フィールド」、沖縄島北部のやんばる地域に「与那フィールド」を有しています。

特に「与那フィールド」は、日本の中で唯一亜熱帯に位置する大学演習林であり、他の大学や研究機関と連携しながら希

少な亜熱帯林の研究に取り組んでいます。管理棟や宿泊棟が設置され、農学部の森林系の研究室を中心に、フィールドワークや実習等で利用されています。

2016年9月には「やんばる国立公園」が誕生し、与那フィールドの森林も大半が国立公園区域に指定されました。



■亜熱帯林の継続調査



■森林内に設置された微気象観測タワー



■イジユ人工林の除間伐試験

研究フィールド

瀬底研究施設(熱帯生物圏研究センター)

熱帯生物圏研究センターでは、熱帯・亜熱帯における生物および環境に関する研究を行っています。その中で、瀬底島にある瀬底研究施設では、サンゴ礁に生息する生物の生命機能を生理・生態面から研究しており、サンゴ礁研究の全国的、国際的なフィールド拠点および水槽飼育実験の拠点となっています。

国内外の多数の研究者と、サンゴ礁の生態、生理、遺伝子に関する多数の共同研究が実施され、研究者が集まる研究集会等も頻繁に開催されています。

施設では、琉球大学大学院の教育、全国の学部学生を対象としたワークショップなどの教育活動も行われています。



■上空からの実験所



■船上での作業



■野外調査 潜水



■瀬底島のサンゴ礁



■サンゴの産卵

西表研究施設(熱帯生物圏研究センター)

わが国最大の亜熱帯照葉樹林・マングローブ林を有する西表島に設置されている熱帯生物圏研究センターの西表研究施設には、多様性生物学・森林環境資源学・マングローブ学・サンゴ礁生物生態分類学の研究室があり、日本のマングローブ研究の中心として重要な役割を担っています。また、島を取り巻くサンゴ礁環境を活用した調査研究も盛んに行われています。

当施設は琉球大学の学生への講義・実習だけではなく、国内外の他大学院、学部、あるいは高校などから来訪する研究者や学生にも活発に利用されており、年間の延べ利用者数は3,500人に上ります。西表研究施設には2つの研究棟と宿泊棟があり、ガラス室や圃場も整備されています。



■西表研究施設と船浦湾



■サンゴ礁は研究課題の宝庫です。



■西表島のマングローブ林の面積は日本最大です。

深い学識と豊かな人間性をベース

法文学部

法文学部長 浜崎 盛康

多角的な視点から批判的に分析できる知性を持ち、地域社会及び国際社会に貢献できる人材を育成する。

法文学部は、島嶼県に位置する人文社会系の総合学部として多彩な基盤的学問分野の真理の探究を行うとともに、平和・共生の理念に基づき、沖縄の地域特性を活かした幅広い学際的な教育研究を通して、多角的な視点から批判的に分析できる知性を持ち、地域社会及び国際社会に貢献できる人材の育成を目的としています。総合社会システム学科、人間科学科、国際言語文化学科の3つの学科からなり、社会科学・人文科学の分野の科目を提供しながら、学問の枠組みを超えるような総合的・学際的な教育体制を整えています。また、昼夜開講制を採用し、教育機会の拡大にも積極的に取り組んでいます。

特徴のある研究分野として、琉球史や琉球諸語研究があげられ、世界的な研究の中心となっています。



観光産業科学部

観光産業科学部長 下地 芳郎

観光科学・経営学の理論と実践を追求し、国際的に通用する人材を育成する

観光産業科学部は、観光科学科と産業経営学科の2学科から構成されており、地域の持続的発展に寄与する観光科学・経営学の理論及び実践の追求と、国際的に通用する実践型人材の育成を目指すことを基本目的としています。総合大学の学部であることの強みを活かし、社会科学、人文科学、自然科学を組み合わせた文理融合型の学際的アプローチを行っているのが特長で、「健康・保育観光」「エコツーリズム産業」「文化観光」等のニューツーリズムを学ぶ機会の提供など、総合的かつ応用的成果の社会への還元を図っています。

さらに国内及び海外の交流協定大学との連携をもって、教育・研究の質的向上に向けた体制を確立しています。



※法文学部及び観光産業科学部では、平成30年4月から改組を計画しています。

教育学部

教育学部長 小田切 忠人

地域に目を向け、教育現場に根ざした理論と実践を兼ね備えた専門家を養成する

教育学部は、学校教育教員養成課程で小学校と中学校、及び特別支援学校の教員を養成することを目的としています。この課程の修了者は小学校一種、もしくは中学校一種の教員免許状、さらには特別支援学校一種の教育免許状を取得します。

カリキュラムは主に、小中学校の教員(特別支援教育を含む)や教育関係の専門家になるための確かな理論と方法、そして実践力を得ることを重視し、そのために特に附属小中学校や市町村の公立学校、その他関係機関と密接に連携することに力を入れています。さまざまな関係教育機関などに参加体験することで、地域で活躍できる人材を養成できると考えています。



理学部

理学部長 山崎 秀雄

基礎科学の英知で「無理」を「夢理」に変える未来創造の学舎

理学部は、真理探究を唯一の目的とするのではなく、基礎科学の英知を持って地域社会と国際社会に貢献することも重要なミッションだと考えています。沖縄の持つ特異な歴史的背景と、亜熱帯島嶼の自然探究を通して、本学部はサンゴ礁科学のような他に比類なき個性を国内外に発揮してきました。現在、数学、物理、地学、化学、生物の5分野の教育研究を、数理科学科、物質地球科学科、海洋自然科学科の3学科で行っています。時代の要請に従って自らの形と役割を変化させてきた理学部には定型はありません。

理学部は、基礎科学の英知を駆使して「無理」を「夢理」に変えることができる未来創造型人材の育成を目指しています。



に地域と国際社会で活躍できる人材を育成

医学部

医学部長 石田 肇

医学・医療の進歩に柔軟に対応しつつ、さらに高いレベルを目指す国際的人材を養成する

医学部は、医学と保健学に関する専門の知識と技術を修得し、高い倫理性を身に付け、医学・医療の進歩や社会的課題に柔軟に対応できる



医師、研究者、保健・医療技術者を育成することを目的としています。島嶼地域医療の充実をはじめ、地域住民の医療、福祉、保健の向上に貢献するとともに、国際性豊かな医学部として東南アジアを主とする諸外国との学术交流及び保健・医療協力を寄与しています。このため、教育においては国際医療や離島医療を含む地域医療の場でリーダーシップを発揮できる医療人の養成を目的とした特色ある教育を実施しています。

これらを通じて、国際性豊かな医学部としてアジア・太平洋地域の国々での国際医療協力を積極的に推進しています。

工学部

工学部長 有住 康則

技術者倫理と高度な専門知識を有し、豊かな創造力と実践力を備えた人材を育成する

工学部は、1学科体制となり、7コース(機械工学コース、エネルギー環境工学コース、電気システム工学コース、電子情報通信コース、社会基盤デザインコース、建築学



コース、知能情報コース)を提供し、幅広い教養と技術者倫理及び高度な専門知識を有し、社会及び地域環境保全や平和に貢献し得る、豊かな創造力と実践力を備えた人材の育成を目的としています。

科学技術の高度化、先端化に伴い、技術者及び研究者には高い知性と鋭い洞察力が要求されています。社会基盤デザインコースの教育プログラムは、JABEE(日本技術者教育認定機構)の認定を受けています。また産業界との連携も強く、インターンシップ制度や、自主的に考え問題解決ができるような自立的人材の育成に力を入れています。

農学部

農学部長 井上 章二

亜熱帯地域の条件を活かした、バイオサイエンスのフロンティアをめざして

農学部は、我が国で唯一亜熱帯地域に立地している農学部であり、亜熱帯地域農学科、亜熱帯農林環境科学科、地域農業工学科および亜熱帯生物資源科学科



の4つの学科に14の教育コースが設置されています。

亜熱帯地域の特性を活かした研究がなされ、地域資源の合理的な利用・循環や農業を取り巻く生物の諸特性解明、人と自然環境との調和や田園空間の創造、さらに機能性食品等に利用可能な成分の開発などに関する教育と研究を行っています。

農学は自然科学と社会科学の基礎から応用までを包含する総合科学です。その特性を考慮し、授業科目は講義、演習、実験、実習、セミナーをバランス良く組み合わせてカリキュラムを編成しています。



■球陽橋

地域の特性を活かし、より高度な

人文社会科学研究科

(博士前期課程) (博士後期課程)

研究科長 浜崎 盛康

高度な分析能力と実践的判断力を持つ専門職業人を育成

人文社会科学研究科では、社会人大学院生も受入れ、そのニーズに対応するために夜間および土曜日にも授業を行っています。博士前後課程では、学生の能力や研究課題に応じて専攻や研究科を超えて広範囲な科目履修が可能です。より高度の人文社会科学を体系的に展開させる教育体制を整え、変動する現代社会の問題や課題に柔軟に対応できる、高度な分析能

力と実践的判断力を持つ専門職業人を育成する事を目的としています。

博士後期課程では、沖縄の持つ地理的・歴史的・文化的諸条件を生かした新たな学問体系の構築と学術の創造を目指します。世界の中の琉球・沖縄という観点から、地域の課題を多角的に解明していく人材を養成します。

人文社会科学研究科 比較地域文化専攻 外国人留学生特別プログラム

(博士後期課程)

海外で沖縄研究、日本研究を主導する人材を養成

人文社会科学比較地域文化専攻では、2015年度から主として中東欧諸国、南米諸国からの国費留学生を対象に特別プログラムを提供しています。学年暦の開始を4月、修了を3月に設定し、授業は日本語で行ってます。本プログラムでは、琉球・沖縄研究、日本研究で修士号を取得した留学生を対象に、博士後期課程の教育を行っています。博士号を取得後は、母国

の大学等の研究機関において人文科学・社会科学の分野で主導的役割を担い、沖縄研究、日本研究を遂行する人材を養成する事を目的としています。

観光科学研究科

(修士課程)

研究科長 下地 芳郎

さまざまな分野が関連する観光学を学際的な視野で考える力を養う

観光科学研究科は2009年に開設された、最も新しい研究科です。特色は学際的かつ専門的な知識を身につける事ができる教育プログラムにあります。この教育プログラムでは、サステナビリティ(持続可能性)を観光学の基礎に位置づけ、ツーリズム・ビジネス、ツーリズム・デベロップメント、ツーリズム・リソースマネジメントの3領域に関する基礎的知識を習得し、さ

らに1領域に関して深く研究することとしています。また、日本を代表する観光地である、沖縄の地域特性に関する授業を開設しています。本研究科は観光立国の実現に向けて、海外、日本、そして沖縄県において観光振興の牽引役と成る高度な専門職業人の育成を目的としています。

教育学研究科

(修士課程) (専門職学位課程)

研究科長 小田切 忠人

多様な教育の場で、専門的力量とリーダーシップを発揮できる教育人材を養成

教育学研究科には、修士課程と専門職学位課程があります。修士課程には、学校教育専攻、特別支援教育専攻、教科教育専攻があり、より高度な教育の理論的基盤と実践力を培い、多様な教育の場で専門的力量とリーダーシップを発揮できる教育人材の養成を目的としています。昼夜開講制による授業実施と長期履修制度を制度化し、現職教員や社会人の学習・研究

の機会拡大をはかっています。

専門職学位課程には、一般に「教職大学院」と呼ばれる高度教職実践専攻があり、学校マネジメント、教科指導、生徒指導、学級経営などについてより高度な実践的指導力の修得を目指した教育課題を提供しています。

医学研究科

(修士課程) (博士課程)

研究科長 石田 肇

多様なニーズに対応し、変化に対応できる力を備えた人材を育成

近年の医学・医療のダイナミックな変化に対応できる自己改新力と生涯持続力を持った優れた人材を育成することを目的とし、博士課程の改組及び、研究プロジェクトに対応したコースワーク・リサーチワークを編成を行いました。修士課程では、博士課程と連携した体系的な教育プログラムを提供しています。

学卒業歴を問わず資格審査で学生を受け入れているほか、社会人学生にも受講しやすいよう、夜間に講義を実施しています。生活環境に合わせて履修できる長期履修制度や、修士課程から博士課程まで最短4年で修了可能な早期修了制度も準備しています。

本研究科では医学部以外の人材も幅広く募集し、大

プログラムで社会に貢献する

保健学研究科

(博士前期課程) (博士後期課程)

研究科長 福島 卓也

心身の健康・長寿を探究する国際的な研究者、指導者を養成

保健学研究科は、人間健康開発学と国際島嶼保健学の2つの研究領域から構成され、心身ともに豊かな健康・長寿に役立つ研究能力を有する研究者および指導者を養成することを目的としています。

沖縄の社会文化的環境や亜熱帯性自然環境を基盤とした健康・長寿の維持増進および再生に役立つ研究、健康資源の解明に関する研究、アジア・太平洋地域

の島嶼地域保健の課題とその対策に関する研究などユニークなテーマに取り組んでいます。また、本研究科は、アジア・太平洋地区公衆衛生学校連合体をはじめとする国際学会での大学院生の研究発表等を積極的に推進し、大学院教育の国際化を促進しています。

保健学研究科 外国人留学生特別プログラム

(博士前期課程) (博士後期課程)

研究科長 福島 卓也

東南アジア・太平洋諸国の公衆衛生・保健医療に寄与できる人材の育成

保健学研究科では2015年度より、東南アジア・太平洋諸国を中心とした留学生を対象に、特別プログラムを提供しています。学年暦の開始を10月、修了を9月に設定し、授業は英語で行っています。本プログラムでは東南アジア・太平洋諸国の公衆衛生や、保健医療に関する問題とその解決策の提言について研究を行い、自国の公衆衛生の改善に寄与できる人材の育

成を目的としています。

コースでは、日本人学生も留学生とともに学び、グローバルに活躍する人材の育成のための環境を作っています。留学生の母国等東南アジア・アフリカでの保健学研究を実施し、グローバルヘルス関連講義からの知識の習得だけでなく、共同研究実施を通じて、学生同士の相互学習が積極的に行われています。

理工学研究科

(博士前期課程) (博士後期課程)

研究科長 山崎 秀雄

伝統的な理学および工学の学問分野に加え、新しい学際複合領域の大学院教育

理工学研究科には、工学系分野と理学系分野の博士課程があり、前期課程は、工学系が4専攻(機械システム工学、環境建設工学、電気電子工学、情報工学)、理学系が3専攻(数理科学、物質地球科学、海洋自然科学)、後期課程は、生産エネルギー工学、総合知能工学、海洋環境学の3専攻で構成されています。日本最南端に位置する理工系大学院として、独自のスタンス

で沖縄の地域特性を活かしたユニークな教育研究を展開しており、伝統的な理学および工学の学問分野に加えて、「亜熱帯」、「島嶼」、「海洋」の三つのキーワードに関わる新しい学際複合領域の大学院教育にも取り組んでいます。理学および工学に加えて「学術」の学位も提供しています。

理工学研究科 外国人留学生特別プログラム

(博士前期/後期課程)
(博士前後期一貫課程)

アジア・太平洋島嶼国等からの留学生を対象にした研究者の育成プログラム

理工学研究科では、英語で学位を取得できる特別プログラムを提供しており、主にアジア・太平洋島嶼国・中東・アフリカ各国などから多くの留学生が参加しています。学年暦の開始を10月と4月、修了を9月と3月に設定し、募集、選抜、授業、実習・論文作成指導のすべてを英語で行っています。「アジア太平洋工学デザインプログラム」では、熱帯・亜熱帯・島嶼諸国が抱

える今日的な問題を解決することができるグローバル工学人材の育成を目的とし、「亜熱帯海洋科学国際プログラム」では、亜熱帯海洋科学の若手研究者の育成、国際学術研究の発展、地球環境問題の解決に寄与する事を目的としています。また「サンゴ礁生物科学人材養成プログラム」には日本人学生も参加し、国際人的ネットワークの構築を目的としています。

農学研究科

(修士課程)

研究科長 井上 章二

亜熱帯農学の幅広い分野を網羅した教育プログラムで、社会に貢献する人材を育成

農学研究科は、グローバルに変容する社会に対応でき、かつ広く社会に貢献する人材を育成します。環境に調和した生物資源の安定的生産や持続的利用に独創的に取り組むとともに、亜熱帯農学の幅広い分野を網羅した体系的な教育プログラムを編成し、農学に関する総合的な知識と沖縄県を含む亜熱帯地域の農業に関する課題に対応できる人材を育成しています。

カリキュラムは基本教育科目、専門科目と展開応用科目から構成されています。熱帯・亜熱帯の農業の発展に寄与できる高度な専門知識や技術の修得、食・農・環境・資源の課題に関する教育および研究を行う実体験型プログラムの他、幅広く深い学習ができる教育プログラムを提供しています。

法務研究科

(専門職学位課程)

研究科長 清水 一成

社会の多様化に対応できる人権感覚と国際的視野を持った法曹人を養成

法務研究科では、沖縄という地域がもつ国際的特性と地域的特性を認識し、国際的視野をもちながら、地域の法的ニーズに応える、ローカルとグローバルな視点を兼ね備えた「グローバルな法曹」の養成に努めています。地域の問題に取り組むため、沖縄企業法務などを開講し、米軍基地法、日米関係など特色ある科目も設置しています。またインターナショナル・ロイヤー

を目指せるよう、アメリカ法、法律基礎英語、アメリカ憲法などを用意し、さらに、LGBTQを含む性の多様性を尊重する法曹を養成することを目指した科目も設置しています。学生生活のサポートのために、指導教員、就学支援委員制度を導入し、沖縄弁護士会との協力体制も充実しています。

鹿児島大学大学院連合 農学研究科

(博士課程後期)

環境と調和し、安定的な食糧生産と技術革新を担う指導者を育成

鹿児島大学大学院連合農学研究科は、日本の食糧生産基地である九州・沖縄において、農林水産業のさらなる発展を目指し、環境と調和した安定的食糧生産および技術革新を担う指導者育成を目的にしています。琉球大学、佐賀大学、鹿児島大学が連合し教育研究体制を整えた博士課程大学院です。温帯から熱帯の資源の生産・利用を中心に、地域・国際農水産学、環

境農水産学および先端生命科学に関する高度な専門的能力と豊かな学識を備えた研究者を育成し、農水産学の進歩および地域の発展に寄与する事を目的としています。また、東アジアにおける農水産学の教育研究の中核となる事を目標に、社会人ならびに海外の留学希望者を積極的に受入れています。

特別支援教育 特別専攻科

専門教育を一年間履修し、特別支援学校教諭一種免許状を取得

この専攻科は、知的障害児教育の充実を図るために、昭和53年(1978年)に設置されました。大学卒業生で、小学校・中学校・高等学校教諭又は幼稚園教諭免許状を有する者を対象とし、専門教育を一年間履修することにより、特別支援学校教諭一種免許状を取得する事ができます。特別支援教育に関する理論と指導法に関する授業科目を基礎としながら、教育学的、心

理学的あるいは生理学的なアプローチ等、幅広く学ぶ事ができるカリキュラムを用意しています。また特別支援学校における教育実習の他に、特別支援教育に関する卒業論文も必修科目とする事で、実践的な指導法と基礎的な理論の双方を身につけることを目指しています。



21世紀型市民を育てるURGCC

社会から求められあらゆる場所の架け橋となる人材を創り出す

URGCC

University of the Ryukyus Global Citizen Curriculum
(琉球大学グローバルシティズン・カリキュラム)

全ての教育活動が「URGCC」に結びつき
学生を地域と世界の架け橋となるグローバルシティズンへ育みます。

琉球大学のすべての教育活動を貫く「URGCC」がめざすのは、学生を沖縄をはじめとする地域社会と世界の津梁(架け橋)となるグローバルシティズン(21世紀型市民)へ養成することです。

これを念頭に「URGCC」の概念は、7学部15学科1課程が展開する学士教育プログラム(専門学習)はもとより、学部間の共通教育等科目とも深くリンクしています。

また「URGCC」には学士や社会人としての質を保証するという側面もあり、自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、問題解決力、専門性という「7つの学習教育目標」を設定しています。

こうした琉球大学ならではの「URGCC」を受けとめ、時代が求めるグローバルシティズン(21世紀型市民)へと成長して欲しいと願います。

「URGCC」7の学習教育目標

自律性	自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができる。
社会性	市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身につけ、多様な人々と協調・協働して行動できる。
地域・国際性	地域の歴史と自然に学び、世界の平和及び人類と自然の共生に貢献することができる。
コミュニケーション・スキル	言語(日本語と外国語)とシンボルを用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができる。
情報リテラシー	幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができる。
問題解決力	批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができる。
専門性	専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身につけ、活用することができる。

すべての学部で行う
世界を視野に入れた一貫教育
必要とされる人間力を育む

URGCCと共にある大学教育
全学一致して取り組む質の向上



「ちゅら島の未来」地域の活性化

琉球大学が目指す「学びのコミュニティ」の構築

琉球大学は、平成25年度文部科学省の大学COC事業「地(知)の拠点整備事業」の補助事業に採択されました。今後、地域社会とのネットワークをいっそう充実し、各種地域人材の育成プログラムの開発・提供、琉球大学サテライトキャンパスにおける学習機会の拡充、地域のニーズに応える学習コンテンツの更なる充実等、人材育成に関する取組みを強化します。そして、多種多様な学びの機会で生み出された成果を、有機的に地域の活性化につなげることのできる「学びのコミュニティ」を構築することを通じて、全学を挙げて本学の教育・研究資源を地域社会へ還元してまいります。

東西南北をつなぐ琉球大学サテライトキャンパス

琉球大学では、県内の島嶼部を含む6地域に琉球大学サテライトキャンパスを設置しています。(平成29年4月現在)このキャンパスでは、「サテライト教育システム」を活用した双方向(多方向)型の教育、対面式の出前講座、また、シンポジウム・フォーラム・ワークショップ等、多様な学習形態による学びの機会の拡充に努めています。



これまでの主な活動実績

【公開講座】

市民ランナーのためのランニング科学講座／沖縄近現代史事始め／気になること
もの理解・子育て・支援／新人養護教諭のための実務サポート講習／心理リハビリテ
ーション・ボランティア養成講座／電子工作教室 等

【公開授業】

海洋の科学／天体観測を通して学ぶ宇宙／琉球語学入門 等

【その他】

琉球大学オープンキャンパスの配信／シンポジウムの開催／市民講座等の開催 等



COCとは

文部科学省が進めるCOCとは、Center of Communityの略で、大学が地域コミュニティの中核的な存在となることをさします。今後、大学は地域の
実情に応じ、学部学科や専門分野の枠を超え、さまざまな資源を活用しながら、
地域を志向した教育・研究・社会貢献活動を行い、地域が直面する諸課題
に取り組むことによって、地域から信頼される地域コミュニティの中核的存在と
して、機能強化を図っていくとが求められています。

を担う人材育成の拠点

大学COC事業 文部科学省「地(知)の拠点整備事業」

ちゅら島の未来を創る知の津梁

大学COC事業では、文部科学省による補助を受け、平成25年度より、沖縄県や県内の各市町村等と連携する形で、地域社会に資する人材育成プログラムの開発・実施を推進しています。

目指す姿

- 島嶼地域固有の課題である「地域の活性化を担う新たな人材の養成」
- 教育カリキュラムの改革及び教育・研究・社会貢献の強化による大学改革の推進
- 地域の学びのコミュニティの形成

琉球大学が取り組む

「3つの人材育成プログラム」

1 学びの高度化プログラム

学生教育

地域志向型授業への支援
(地域志向教育推進プロジェクト)
地域志向カリキュラム改革(地域志向科目新設等)
学生主体の地域貢献プロジェクトの支援(ちゅらプロ)
地域・国際性、コミュニケーション・スキル、問題解決力、社会性の習得 等



■地域志向科目「現代沖縄地域論」 ■地域志向教育推進プロジェクト ■地域共創型学生プロジェクト

2 能力強化プログラム

人材育成プログラムの開発・実施

自治体職員対象研修／セミナーの実施
各種地域人材対象のプログラム開発・実施
履修証明プログラムの導入
政策形成能力、地域コーディネート能力、事業マネジメント能力の強化 等



■琉球大学サテライト・イベント カレッジ事業 ■自治体職員対象能力強化プログラム ■県内ものづくりに携わる人材の学び直しおよび技術の向上

3 学び直し充実強化プログラム

学習環境の整備

琉球大学サテライトキャンパスの設置
サテライトキャンパスへの公開講座・公開授業の配信、出前講座
ワークショップやシンポジウムの開催 等



■離島支援プロジェクト「知のふるさと納税」 ■アドバイザースタッフ派遣事業 ■ちゅら島の過去と未来を見つめるまなざし

COC+ 文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」

新たな地域社会を創造する 未来叶いプロジェクト

COC+事業では、平成27年度より、公立大学法人名桜大学との連携を軸に、沖縄県や県内市町村(石垣市、宮古島市、久米島町、国頭村、大宜味村 ※順次拡大)、企業、民間団体、NPO、中間支援組織等との協働を通じて、「若者の地域定着」や「新産業・雇用創出」に向けた取組みを展開しています。そして、大学と地域との協働によって、地域を牽引する「地域志向型リーダーの育成」を目指します。

目指す姿

- ニーズとシーズのマッチングに基づく産・学・公・官の協働の新産業・雇用創出などに資する具体的な地域定着・還元型教育・研究・社会貢献事業
- 観光、IT等のリーディング産業分野における雇用創出及び若者定着、同産業分野の活性化を推進
- 沖縄北部地域や島嶼地域において重点的に取組み、地方創生や地域振興に資するグローバルマインドを持った「地域志向型リーダー」を育成

大学／自治体／企業・民間団体・NPO 他

連携・協力

- ・ 地方創生雇用創出・若者定着プラットフォーム
- ・ 地域円卓会議 等

琉球大学が目指す

「地域志向型リーダーの育成」

1 若者の地域定着

卒業生の地域定着率の向上

2 新産業・雇用創出

地域で求められている産業分野における雇用創出
新産業を担う人材の育成

3 地域志向型リーダーの育成

地方創生、地域の活性化を担う人材の育成
(教育プログラムの開発・実施)



異文化への理解を深め、国際的



「国際性豊かな特色ある大学」をめざし、国際的に開かれた大学として各国から多くの留学生を受け入れ、平成29年5月現在、46ヶ国・地域から288名の留学生を受け入れています。

本学国際教育センターは、多くの留学生を受け入れ、教育指導を一元的に行うとともに国際交流を推進することを目的とし、さまざまなニーズに対応した教育及び修学生活上の指導助言を行っています。また、本センターは、本学学生の海外留学に対する修学上、生活上の指導助言、情報提供を行う施設としての役割も担っています。



■国際教育センター



■日本事情着付けの様子



■新春書初め



■新入留学生歓迎会



■華道体験



■イチャリパチョーデー民謡大会



■日本語会話クラス

医学部附属病院



高度医療や先進的医療を担い 国際性豊かな医療人を育成する

医学部附属病院は、「病める人の立場に立った、質の高い医療を提供するとともに、国際性豊かな医療人を育成する」を理念として掲げています。

生命の尊厳を重んじた温かい医療の実践や、地域における保健・医療・福祉の向上、地域医療への貢献をおこないつつ、医学部附属病院の使命として、先端医療技術の開発、応用、および評価を指針としています。また、沖縄県内唯一の特定機能病院であることから、高度医療や先進的医療を担い、日々その使命と役割を果たしています。

医学部附属病院は、平成19年にはエイズ診療拠点病院に、平成20年には、都道府県がん診療連携拠点病院として指定を受けました。続く平成21年には沖縄県肝疾患診療連携拠点病院に、また平成23年にはへき地医療拠点病院として指定を受けています。沖縄県における高度医療および地域医療を担う医療機関として機能するとともに、感染症などの分野で、東南アジア地域における医療への貢献も期待されています。また、おきなわクリニカルシミュレーションセンターを活用した医学教育、再生医療研究センターを活用した脂肪幹細胞を用いた再生医療、およびロボットを用いた手術・リハビリなどの先進医療、などにも取り組んでいます。



■おきなわクリニカルシミュレーションセンター(2012年4月開設)



■再生医療研究センター(2015年6月開設)

通して広く社会に貢献

附属図書館

電子ジャーナルなど幅広い学術情報を整備収集 充実した沖縄資料に県内外の研究者も注目

附属図書館の蔵書は約100万冊あり、毎年1万冊以上の資料を受入しています。さらに、学修や研究に必要な情報として、図書と雑誌だけでなく、データベースや電子ジャーナルが利用可能です。沖縄関係の資料が充実しているのが特徴で、本学の学生・教職員だけでなく、県内外の多くの研究者にも利用されています。

また、当館は国連寄託図書館とEU情報センターにも指定されており、国際資料の活用にも力を入れています。所蔵資料は、附属図書館のホームページで検索が可能です。



■ラーニング・コモンス

主な活動 琉球大学びぶりお文学賞

言語力（読む力・書く力）を向上させ、想像力や表現力、創造力が豊かな学生を育成すると共に、地域社会における文学・文化活動のリーダーを輩出することを目的に設けられた文学賞です。対象は沖縄県内の大学生で、受賞作品は冊子として発行、県内外へ広く配布すると共に、図書館ホームページで公開しています。

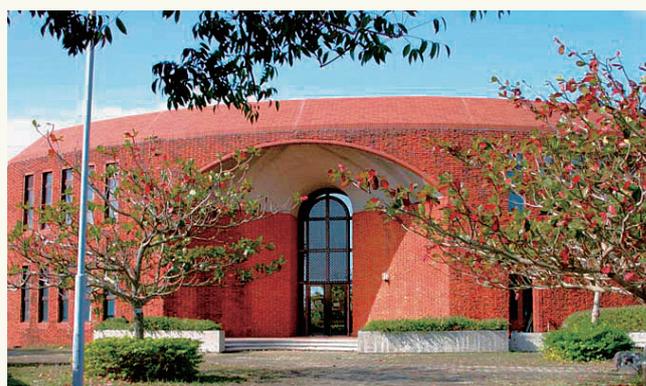


■受賞作を冊子として発行

博物館(風樹館)

17万点あまりの貴重な資料を収蔵 データベース公開で、標本情報の発信も行う

琉球大学博物館(風樹館)は、学内の研究者が教育や研究活動の一環として、主に琉球列島で収集した約17万点の標本や資料を収蔵しています。一階にある常設展示室では、イリオモテヤマネコやヤンバルクイナなどの希少生物の標本をはじめ、首里城関連の考古資料、伝統工芸資料、農具などの民俗資料を展示しています。また、さまざまな動植物が観察できる自然学習の場として「学校ビオトープ見本園」を併設しています。2015年には、全国学校・園庭ビオトープコンクール(主催・日本生態系協会)で日本生態系協会会長賞を受賞し、特に地域とのパートナーシップの観点で優れていると評価を受けました。琉球大学では「地域へ開かれた大学」という方針のもとに、大学が生産するさまざまな学術情報を学外へも広く提供しています。当館では、広く学外の方々にも収蔵資料を活用していただけるよう、ホームページ上に標本データベースを開設し、標本情報等の発信を行っています。また、地域への貢献活動として、小学校などへの出前授業や教職員の研修会なども実施しています。



■自然系展示室

学部附属の教育研究施設

教育学部附属学校

■教育学部附属小学校

教育目標に「一人一人が夢をもち、未来を生きる力のある子」を掲げています。

21世紀は個性を大事にする時代であることをもとに、一人一人が将来の目標となる大きな夢をもち、自らの未来を自分の力で生きることができる子の育成を目指しています。また、基本的な教育理念をもとに、知・徳・体のバランスのとれた子どもの育成をおこなっています。

総定員 630人 全20クラス

■教育学部附属中学校

「よく考え、豊かに感じ、自発的に行動する生徒の人間性を形成する」を教育目標とし、生徒に生きる力をはぐくむことを目指しています。創意ある教育活動を展開する中で、物事をよく考え、自ら進んで課題解決に粘り強く取り組む生徒の育成に努めています。また、教育実習に協力し、学生に対して教育実践者としての資質を磨かせるほか、学部教員との共同研究を行っています。

総定員 480人 全12クラス

教育研究施設

【教育学部】教育実践総合センター

学校及び地域社会の教育課題の解決に的確に対応できる人材の養成に向け、学部及び関係諸機関との連携を図り、教育実践並びに教員養成に関する理論・実践的・臨床的研究及び指導等を総合的、体系的に推進することです。

発達支援教育実践センター

子どもの発達支援に関する研究や研修活動を通じて地域社会への貢献を目的とし、特別研究員制度、実践及び研究活動の充実を図っています。また「トータル支援教室」、「実践事例研究会」、「特別研究員の実践研究会の報告」や講師の講演を行う公開セミナーも開催しています。



■発達支援教育実践センター中プレイルーム

教育研究施設

【医学部】実験実習機器センター

先進的な医学研究と医学教育の推進に資するため、医学部の共同利用施設として、個々の研究室単位では対応出来ないような実験機器の運用と技術支援をおこなっています。

動物実験施設

医学部及び関連領域の教育・研究に資するため、実験用動物の飼育管理、動物実験、代替実験及び実験用動物に関する教育、開発、研究等を行っています。

【工学部】工作工場

工作工場は機械システム工学科のものづくり教育の拠点です。「ものを作る正確さ、早く効率良く安全に作る。」を学ぶ工作工場です。作るための講義、材料加工実習があり、実習は高度技術者養成の立場から、幅広いテーマと内容で少人数の班分けによる実習を実践しています。

進化する加工技術に対応するマシニングセンタやCNC工作機械も設置し、それらを制御するプログラミング教育も重点的に行っています。さらに、工学実験や卒業研究および大学院の研究に関わる多種多様な機器や装置の製作を通して教育研究の支援をおこなっています。

【農学部】亜熱帯フィールド科学教育研究センター

亜熱帯フィールド科学教育研究センターは、農学部隣接する千原フィールドと沖縄島北部に所在する与那フィールドの2つのフィールドを有しており、作物・家畜・森林を通じたフィールド教育や研究を行っています。

千原フィールドにおいては、作物栽培、施設園芸、畜産などに関して、与那フィールドでは、森林などに関して、農学部学生の基礎から応用まで幅広く実践的な教育研究を担います。



■ウコン畑における実習の様子

研究を支える充実したセンター

熱帯生物圏研究センター

熱帯生物圏研究センターは、西原研究施設、瀬底研究施設、西表研究施設、分子生命科学研究施設から成り、熱帯・亜熱帯における生物の多様性やその背景にあるさまざまな生命現象に関する研究を行っています。おもにサンゴ礁生態系の形成や機能の解明に関する研究、亜熱帯島嶼環境下にお

ける生物多様性の現状や形成過程に関する研究、生物資源の検出、有効利用、効率的な生物生産の確立に関する研究などを行っています。また当センターは共同利用・共同研究拠点として、研究施設や設備を国内外の研究者が利用、共同研究を実施する場としても機能しています。



■西原研究施設



■瀬底研究施設



■西表研究施設



■分子生命科学研究施設

研究基盤センター

研究基盤センターは、機器分析施設、化学物質管理室、環境安全施設、RI施設、極低温施設からなる学内共同教育研究施設です。機器分析施設ではさまざまな分析機器40台以上と大型プリンターが稼働し、学内外からの依頼分析にも対応しています。化学物質管理室では化学物質管理システムの運用サポートや安全講習会等の啓蒙活動を、環境安全施設では実験系廃棄物の管理、全学排水水質検査等を行っています。RI施設は放射性物質を扱う専用の実験施設で、放射線安全管理を行っています。極低温施設では、液体窒素(-196℃)及び液体ヘリウム(-269℃)を製造し、凍結保存や超伝導など幅広く利用されています。

総合情報処理センター

総合情報処理センターは、学内コンピュータネットワーク設備を管理運営し、学内の情報処理教育環境と研究環境の充実を図り、ICT活用のための教育基盤を提供しています。また、広帯域ネットワークおよび無線LANの管理、e-ラーニング等主要なインターネットアプリケーションとネットワークサービスに取り組み、さまざまな情報サービスを提供するとともに、学内の学生と教職員にICT活用のための技術的支援を行っています。

さらに、情報処理に関する研究ならびに次世代学内コンピュータネットワーク構築のための研究開発を行っています。

島嶼防災研究センター

島嶼防災研究センターは、地震、津波、地盤災害(斜面崩壊、土石流、堰止め湖、シンクホールなど)、台風、洪水等の自然災害を研究対象とし、奄美大島から与那国島まで多くの島々で構成される長さ1300kmに及ぶ広大な南西諸島地域の総合的な防災研究機関です。当センターはレンタルラボ形式で、地震・地盤問題を対象とする地殻工学防災研究所、災害を受けた構造物を早急に評価するシステムを開発しているNPO法人グリーンアース、社会基盤構造物や建物の劣化・腐食を防止する新技術の沖縄県への導入・適用を目的とするSIP研究室、災害時のコミュニケーションに特化した研究室が入居し、本学教員が共同で防災に関わる研究活動を行えるシステムを導入しています。

国際沖縄研究所

国際沖縄研究所は、沖縄や沖縄との共通の課題を有するさまざまな地域について、人文・社会科学系を軸とした多分野融合型研究を展開し、国内外の研究機関との共同研究の推進に取り組んでいます。

2016年度からは、沖縄や沖縄と同じ小島嶼地域が抱えるさまざまな課題を掘り起こすと同時に、島と大陸・本土等との関係性にも焦点を当て、島々の持続的発展に向けた経路や処方箋を導き出す「島嶼地域科学」の体系化を、法文学部との共同事業としてスタートさせています。そのため、複数分野からの多角的研究、国内外の研究者等との連携、若手研究者の育成にも力を入れています。

人材の育成と地域との連携

グローバル教育支援機構

グローバル教育支援機構は、本学の教育の目的と理念に沿って、教育水準の向上とグローバル化を図るとともに、学生を入学から進路決定まで一貫して支援し、社会に求められる人材を育成することを目的として、学内共同教育研究施設を統合し、平成27年7月1日に設置されました。平成29年4月1日には既存の施設である保健管理センターを新たに統合し、これまでの5部門体制(アドミッション部門、共通教育運営部門、授業支援部門、国際教育支援部門、キャリア教育支援部門)から、保健管理部門(保健管理センター)を加えた6部門体制となり、各部門が連携しながら、より効果的な教育・学生支援を行うとともに、学生の国際交流のさらなる推進などに取り組んでいます。



■共通教育運営部門(大学教育センター)
■授業支援部門



■国際教育支援部門(国際教育センター)



■キャリア教育支援部門
(キャリア教育センター)



■保健管理部門(保健管理センター)

研究推進機構

研究推進機構は、基盤的研究ならびに沖縄の地域特性を反映した特色ある研究の一層の強化を図ることを目的として、平成27年に設置されました。既存の全学研究所・研究推進組織や博物館(風樹館)、研究基盤センターなどに加え、部局の枠を超えた研究プロジェクトの受皿となる戦略的研究プロジェクトセンター、ならびに研究企画室から構成されています。

戦略的研究プロジェクトセンターは、特色ある研究プロジェクトの中核となる研究者が研究に専念できるように支援することにより、本学の研究水準の向上に貢献することを目的とした組織です。従来の研究テーマを深化させるとともに、学問分野や所属部局の枠を超えた、新たな研究領域の開拓にも取り組みはじめています。

また研究企画室は、研究マネジメントを行う高度専門職員であるリサーチ・アドミニストレーター(URA)が所属する研究推進のための組織です。本室で



■ブレインストーミング風景

は、研究活動に関する調査・分析、研究倫理向上に質する支援、科研費などの競争的資金の獲得支援、研究プロジェクトの企画・活性化、研究成果の発信、国際的な研究拠点構築支援など多様な人材を活かす環境整備支援の活動を行っています。

地域連携推進機構

地域連携推進機構は、地域連携企画室、産学官連携部門(旧・産学官連携推進機構)、生涯学習推進部門(旧・生涯学習教育研究センター)と、文部科学省の補助事業である大学COC事業及びCOC+事業担当の統合)からなり、本学の地域連携、産学官連携及び生涯学習推進に関わる戦略を全学的かつ一体的な観点から確立し、地域社会における人材の育成、産業振興に貢献するとともに、地域連携の諸活動を通して本学における教育研究活動の活性化を図ることを目的としています。また、学内の各学部・研究科や、大学の機能強化のための全学的組織である研究推進機構、グローバル教育支援機構との協働、そして学外の各種機関(産業界や行政機関、高等教育機関等)との連携機能を担っています。



亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構

亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構は、文理融合型学際領域研究の推進を目的として、平成17年に設立された学部横断型組織です。21世紀の諸問題解決には、知識の融合と学際・複合領域研究者の育成が必要です。本機構では、「海洋」、「島嶼」、「亜熱帯」の3つのキーワードを柱に、サンゴ礁、マングローブ域、琉球の人・文化・国・有用資源生物・環境共存型産業を対象とした研究のインキュベーション活動を行いました。平成20年度には、文部科学省科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進プログラム」に採択され、「亜熱帯島嶼科学研究拠点を担う若手研究者育成プログラム(ライジングスタープログラム)」を平成24年度まで実施しました。「亜熱帯島嶼健康科学分野」、「亜熱帯島嶼生物科学分野」、「亜熱帯環境科学

技術分野」の3分野において、学際新領域開拓に意欲的な若手研究者10名を国際公募により採用し、亜熱帯島嶼科学の研究拠点化構想を進めました。



ダイバーシティ推進本部

本学では、人類・性別・国籍・障がいの有無及び年齢等に関わらず、多様な属性を持った人材が本学の人的資源として活躍できるような支援を行う組織として、平成27年4月に「ダイバーシティ推進本部」を設置いたしました。多様性のある大学づくりを積極的に推進するため、平成27年3月にダイバーシティ推進宣言とともに、ダイバーシティ推進のための5つの基本方針を採択しました。

また、ダイバーシティ推進本部において、ジェンダー協働推進室(旧:男女共同参画室)を運営主体に、さらなる男女共同参画の推進を図り、積極的な取組みを実施していきます。

ハラスメント相談支援センター

ハラスメント相談支援センターは、平成27年5月に地域国際学習センター3階に開設しました。国内の大学機関では珍しい、ハラスメント問題に特化した独立の相談機関となっています。被害にあわれた方の心のケアを何より大切にしながら、人権侵害に対しては法律の観点が必要となることも多いため、法律と心理を専門とする教員がタッグを組んでセンターを運営しています。専門の相談員(臨床心理士)が常駐する他、大学固有の問題も多いため、各部局の教員も相談員を担当しています。(相談員やスケジュールはHPで確認することができます)。全学ハラスメント防止対策委員会とも連動しながら、ハラスメント問題の防止と解決に取組み、ハラスメントの無いキャンパスを目指します。

大学評価IRマネジメントセンター

大学評価IRマネジメントセンターは、教育研究等の改善及び改革に資する活動を推進することを目的として、既存の大学運営推進組織である大学評価センターとIR推進室を統合し、平成29年4月1日付けで設置されました。主な活動は、本学の自己点検・評価に関し、IR(Institutional Research)機能を有効に活用したPDCA(Plan・Do・Check・Action)サイクルによる企画及び調査研究の実施、自己点検・評価の充実及び内部質保証システムの構築、国立大学法人評価委員会が行う業務の実績に関する評価及び認証評価機関が行う教育研究活動等の第三者評価への対応です。IR機能を活用した質保証に関する活動はもとより、戦略的な学内資源の再配分や、重点施策に関する支援の強化にも努めています。

学生生活をより豊かに、より実り

キャリア教育センター

キャリア教育センターは、学生自身の卒業後の進路について考え、その目標を達成するための取り組みをバックアップします。

就活アドバイザーによる進路・就職相談、就活実践指導(エントリーシートの添削、面接トレーニング)、職業興味検査の実施、各種ガイダンス・セミナー、学内会社説明会の開催、求人情報、就職に関する情報(書籍・雑誌等)の提供などさまざまなサポートを行っています。

学生の皆さんが充実した就職活動を通して、希望する進路目標を達成するために積極的に活用してください。



保健管理センター



保健管理センターは、学生および教職員の健康の保持、増進などの保健管理に関する専門業務を行う施設として1979年に設置されました。主な業務のうち、健康管理の支援として毎年4月に実施する学生定期健康診断や、学校医による健康相談を行っています。また日常の業務としては、簡単な投薬治療やケガや病気の応急処置も行います。

近年はメンタルヘルスケアの充実を図っており、カウンセラーの増員、カウンセリングルームの拡充などを行うとともに、学業や進路、心身の健康、人間関係などさまざまな悩みに関して専門のカウンセラーが対応しています。

学生相談室

毎日の生活の中から生じた問題や悩みについて、その解決に向けピアカウンセラーがお手伝いします。ピアカウンセラーからの助言や忠告を得るだけでなく、互いに話し合うことで自分の気持ちや考え方を言葉にして整理し、相談者が自ら問題解決の糸口を見つけていくことができます。



障がい学生支援室

琉球大学では障がいのある人もない人も同じように教育・研究に専念できる大学づくりを目指しています。「障がい学生支援室」は障がいのある人や、学業を修めるにあたって合理的な配慮を希望する人のための相談窓口です。講義や実習などで困難を感じたときは、まずは相談窓口を利用してください。



経済サポート

誰もが経済的な事情に左右されずに学べるようさまざまな奨学金制度を設けています。

●琉球大学修学支援基金 学資金支援事業

地域の方々や教職員からの寄附によって学生を支援しています。学業成績が優秀にもかかわらず、経済的な理由により修学が困難な学生へ、返済の必要のない奨学金を給付しています。

●日本学生支援機構 奨学金

日本学生支援機構からの貸与を受ける奨学金には、第一種(無利子)と第二種(有利子)があります。

●入学料免除制度(要申請)

入学料の全額または半額が免除されます。

●授業料免除制度(要申請)

授業料の全額または半額が免除されます。

食堂

学内には中央食堂・生協中央店、北食堂の2施設があります。カフェテリアスタイルの中央食堂は7時50分にオープンし朝食にも対応しています。メニューも豊富に揃え、好みに応じてチョイスできます。

生協中央店ではお弁当、パンなどの軽食の他、文具やパソコン、日用品も購入できます。



■中央食堂

学生寮

国内外の各地から学生や留学生が集まる琉球大学には、異文化交流や人間の成長を促す学生寮(千原寮)があります。

様々な人との出会いや共同生活の中で、社会のルールが自然と身に付き、友人や先輩とのきずなが深まります。



■新混住型棟

クラブ&サークル活動

大学での学びは専門的な知識、技術を修得するばかりでなく、自主的な活動に励むことによって人間性を回復し、発揚する必要があります。

クラブ・サークル活動は、課外活動の代表的なもので、本学においても創立以来その活動は活発に行われています。

全学 体育系クラブ・サークル / 55



全学 文化系クラブ・サークル / 48



キャンパスマップ



A 大学本部棟



B 大学会館
(キャリア教育センター・入試課)



C 共通教育棟
(グローバル教育支援機構)





D 観光産業科学部



E 教育学部



F 理学部



H 農学部



I 医学部



G 工学部

琉球大学へのアクセス

那覇バスターミナルから琉球大学

モノレール&タクシー



首里駅琉大快速線

94 番線→琉大南口/北口方面

- 那覇バス モノレール首里駅から琉大北口まで(平日のみ運行)
経路 首里駅前→汀良三丁目→城東小学校前→石嶺二丁目→
棚原→キリスト教短大入口→琉大附属病院前→
琉大附属小学校→琉大法学部前(琉大北口行きのみ)→
琉大北口(終点)

空港から琉球大学

高速バス

- ※各20~40分に1本程度/所要時間:40~50分
- ※1時間に1本程度/所要時間:45分

111 番線

- 那覇バス
琉球バス・沖縄バス・那覇バス・東陽バスの4社が交互運行

113 123 番線

- 琉球バス
経路 空港→沖縄自動車道→琉大入口下車
(琉大入口にて下車、琉大北口まで徒歩約4分)

那覇バスターミナルから琉球大学

路線バス

- ※各20~40分に1本程度/所要時間:40~50分

97 番線「琉大東口/北口方面」

- 那覇バス
経路 バスターミナル→国際通り(牧志)→儀保(首里)→
琉大附属病院→琉大東口→琉大北口(終点)

98 番線「琉大北口方面」

- 琉球バス
経路 バスターミナル→国際通り(牧志)→バイパス→真栄原→
冲国大前→琉大北口(終点)

沖縄県

【緯度】26度13分 【経度】127度41分



亜熱帯フィールド科学
教育研究センター
(与那フィールド)

熱帯生物圏
研究センター
瀬底研究施設

熱帯生物圏
研究センター
西表研究施設

沖縄本島

琉球大学



平成29年度
琉球大学

編集発行
琉球大学広報室
平成29年8月発行

〒903-0213
沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
電話 (098) 895-8175
URL://www.u-ryukyu.ac.jp/